一同　おお〜。1人で子ども2人を…。

アサカワ　平日は妻が1人でみていて大変そうなので、休日はなるべく…と思って。でも結局、妻は僕たちが出かけている間に家事をしてたりするんですよね。帰ってから「1人の時間楽しめた？いろいろできた？」って聞くと「それを聞かれるのが嫌だ」と。「何かしなきゃいけないみたいじゃん」って。

あらい　なるほど〜。

子育てひろばと父親

アサカワ　1人目のときに、妻が万願寺の「にこにこ」（※2）に行っていて、「楽しいよ、行ってきなよ」って言われたんです。最初はちょっと抵抗あったんですけど、妻にできて僕ができないのは嫌なので。それで、行ってみたら意外と楽しかったんです。「パパ1人で連れてきてすごいね」ってみんなに言われて気分良くなったりして（笑）。

あらい　僕も1度だけ1人で子どもを連れて「はぴはぴ」（※3）に行ったんです。妻が美容院に行く間なんですけど、やっぱり緊張しましたね。周りの方とちゃんとお話できるかな、とか。自分が（笑）。でもやっぱりみなさん優しくて、行ってよかったなと思いましたね。

――男性には入りにくさがありますか？

はるパパ　僕はまだ、妻と一緒の時にしか行っていないんですけど、それでも初めて行った時は緊張しましたね。やっぱり入りづらいというか、男性が入っていいのかな、という気がしてしまって。

きたみ　僕は実は全く抵抗がなくて、むしろ行きたいタイプです。そこに来ている方たちや職員の方と喋りたくて。自分が何かと考え過ぎるので、ほかの人たちの子育てのことをいろいろ聞きたいんです。離乳食のことや寝かしつけのこととか。なので、緊張はなかったです。

――子育てひろばで父親同士の交流は生まれますか？

きたみ　やっぱり繰り返し見かけて認識し合うと、話が始まったりしますね。ひろばでも何人か顔見知りのお父さんがいますし、自宅の近所に年齢の近い子どもが多くて、そういう近所のお父さんとも、会えば話します。

あらい　いいですね。僕たち夫婦は日野に移り住んできたので、地域の知り合いがほしいんです。同じくらいの子どもがいる方たちと、休日に一緒に高尾山とか行けたらいいなと思っています。

トム　僕も会社には同じくらいの子どもを持つ同僚がいるんですけど、地域にはそういう仲間はいないので、いたらいいなと思います。みんなで高尾山、いいですね。

妻の考え、夫の考え

きたみ　夫婦間での考え方の違いは、めちゃくちゃありますね。例えば離乳食に関していうと、妻は結構ワイルドなタイプなんですけど、僕は床が汚れるのが嫌で…。

トム　ああ、わかります。僕もこぼしたらすぐ片付けたいんですけど、妻は全部あげてから片付ける。そこはいつまで経っても平行線というか…。

きたみ　「こういうふうにやっていこうね」って話し合っても、その解釈に幅があるからなんですよね。でもかちっと決めちゃうと、うちは僕の方が細かいので妻が我慢することになったりとか、そういうのは数えきれないです。

――お互いにちょっとしたモヤモヤが残ることもありそうですね。

きたみ　その場で話し合って解決できる時もあれば、そういう自分の気持ちが解消できない時もありますね。

はるパパ　僕は時間に任せています。

アサカワ　うちは逆に自分のほうが割と適当で、妻がしっかりしてる。でもすごく調べて

JOY OF PARENTING ｜ 子育ての喜びは……？

満場一致で「子どもの成長」！

トムさん

抱っこして泣き止んだり寝たりするときは幸せを感じます。僕が家に帰った時にずりばいで玄関まで来てニコニコしてくれるのも、本当に嬉しいですね。ようやく人間らしくなってきたなあと。

あらいさん

成長には純粋に喜びを感じます。バイバイすると手を振り返したり、大人の真似をするようになったり。あと、なかなか泣き止まない時に、僕が抱っこしたら泣き止む瞬間。父親なんだなあって実感する時というか。

はるパパさん

日々できることが増えてきて、言葉も次から次へと新しいのを覚えていく様子とか、寝ている姿がどんどん大きくなっているのとか、成長を見るのはやっぱり嬉しいなと思いますね。

アサカワさん

子どもたちの成長を見るのが嬉しいですね。兄弟喧嘩もよくしますけど、2人の関係性がすごく面白いです。妻は平日本当に大変だろうなあと思います。

きたみさん

子どもの成長です。コップで飲めるようになったとか、滑り台を滑れるようになったとか、段差が降りられるようになったとか。今は育休中なのでそういう変化を日々見られるのが嬉しいです。